

道徳のまち笠松推進会議の活動の一つとして、今年度も、松枝保育所、下羽栗保育所、笠松保育園、笠松幼稚園、笠松双葉幼稚園を訪問し、年長児を対象に、「あいさつの道徳授業」を行いました。

授業の内容は、道徳のまち笠松推進会議で作成した「あいさつ絵本(その1)」の読み聞かせを中心に、挨拶の意味や意義を知るものです。

はじめに、日ごろ交わしている挨拶にはどんなものがあるかを確かめました。すると、子ども達は、時や場に応じた挨拶をよく知っており、感心するばかりでした。きっと、家庭や保育の場で、しっかりと挨拶を教わっているからでしょう。

そこで、気持ちをこめた挨拶を交わし合うことによって心が通じ合い、互いに気持ちよく生活できることを感じてもらえればと思い、「あいさつ絵本」の読み聞かせと心の話をしました。

そして、もう一度、挨拶の練習をしてみると、心のこもった明るく元気な挨拶をすることができました。

最後に、お気に入りの場面の色塗りをして、授業を終えました。

さて、保育所・保育園・幼稚園のみならず小学校や中学校でも、挨拶を考え、取り組んでいます。そんな子ども達の挨拶に大人も応え、どちらからともなく、心のこもった挨拶が交わし合えるようにしたいですね。



授業の様子



絵本に色塗り

かさまつのみ話「昔むかし」

うたれ坊 ④

岐阜の街に用があることを幸いに、五平は、ある老人をさそって、うわさの茶所へ出かけることにした。茶所のように、その大男が、たしかに助三郎かを、一日もはやく確かめたかったのだ。

久しぶりの岐阜への道。小さな川ぞいに八丁なわてがのびている。二人の老人は、ひと休みもせず街道を急いだ。道々の話は助三郎のことばかりであった。

加納の街に近づくと、人の往来が多くなってきた。この街道が、やがて中山道にはいるうとするあたり

に、寺と、その軒先に、茶屋らしいものが見えてきた。夏の暑さをさえぎるように、

すだれが立てかけてあった。茶屋のしるしか、白い旗が、ひらひら動いていた。

西へむかう旅人が、腰をかがめてのぞいていたが、急ぎ足で、茶屋にはいつていつた。

「ここだ。ここにちがいない。」胸をはずませながら、五平たちは、茶屋に近づいた。白い旗には「茶所」と墨で書かれていた。

「旅のお方。旅のお方。お茶をどうぞ。お茶を一杯おのみくだされ。」

力強い男の声にさそわれて、二人はすだれをくぐった。長い腰かけが三脚。旅姿の男が三人、茶をのんでいた。

つづく

かさまつのみ話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。笠松中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。